

2009年3月期第2四半期決算説明会 Q&A

Q. 今後の受注動向をどのように予想していますか？

A. 半導体メーカーの設備投資は、ロジックメーカーによるものと微細化向け投資を除き、低調に推移しています。この状況は下期も継続すると予想され、当社の受注状況は引き続き厳しく、回復は来期以降であると考えています。FPD製造装置におきましても、今後パネル工場の減産、稼働率の低下から、液晶パネルメーカーによる設備投資抑制の動きが懸念されます。受注額に関しては、上期330億円でしたが、下期は上期に比べて減少するだろうと予想しています。

Q. M&A に対する考え方は？

A. 従来 M&A を積極的に検討していましたが、急激な金融情勢の変化を受け、足元はしっかりとキャッシュを確保しておくことが第一であると考えています。しかしながら、さらなる成長に向けては M&A も必要であると考えていますので、足元を固めながら、ケースバイケースで検討していく考えです。

Q. 下期の為替レートは？為替リスクをどのように見ているか？

A. 下期の為替レートは1米ドル=100円、1ユーロ=130円を想定し、これに基づき下期業績予想を作成しています。現在、世界的な金融不安から、為替は急激に変化し、予測が困難です。当社としましては、できる限り為替予約の割合を高めることで、損失のリスクを低減するよう努めています。

Q. 棚卸在庫が増えている理由は？

A. 主に液晶の売上増加に伴う仕入在庫が増えたことによるものです。また、一部、お客様への製品の納入時期が延期されたことも原因です。基本的には在庫削減に向けた対策を取っています。

Q. 期初計画比40億円のコスト削減と言っているが、その具体的な内容は？

A. 残業時間の抑制や出張費などの固定費削減を実行していくとともに、研究開発費、設備投資の選択と集中を進めることで、全体的なコストを削減していきます。

SCREEN